

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470301090
法人名	医療法人 ほうしょう会
事業所名	グループホーム うの花
所在地 (電話番号)	鈴鹿市石薬師字青木1096 (電話) 059-373-1111
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 2 月 27 日(金)

【情報提供票より】 (21年1月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 8人, 非常勤 9人, 常勤換算	12.2人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有(150,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(1月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	6 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	7 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	70 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	朝川クリニック にえ歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

西に鈴鹿山脈を望み、茶畑・植木畑、住宅の点在する閑静な環境に囲まれたグループホームである。母体のクリニック・デイサービス・ショートステイ・在宅介護支援センターが隣接し、利用者のあらゆるレベルに合わせた支援が提供でき、家族や利用者から信頼の厚い事業所である。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前年度からの懸案であった「家族会立ち上げ」「同業者との交流」「チームでつくる介護計画」等、改善の方向に更なる努力がはらわれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前年度の改善指摘事項をも踏まえ、スタッフ全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域包括支援センター・地域自治会・民生委員の参加で昨年3回の運営推進会議が開催されている。市町担当者や家族会代表等の参加を得て、意義ある会議の運営を目指している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情箱・第三者機関へ苦情や具申のできる説明を充分にし、面会時や電話での報告の際に意向や意見の把握をし、些細なことでも管理者が即対応するように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	「うの花」サロンの開催、認知症の講演会等を開催し、地域老人会の活動の場所として開放する等、地域に積極的に働きかけている。災害時には事業所を一時避難場所として利用できるように自治会の防災用具倉庫の設置に協力している。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「尊厳と真心で、その人らしい暮らしを」理念とし、よりよい介護である為に更に詳細な年間チェック目標を挙げて努力している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼やミーティング時に復唱し、理念を基本とした支援を実践することで共有を図っている。毎年の職員勤務評価では、初心に帰ると共に理念の理解と共有がなされているかの確認を管理者がスタッフ個々に問いかけている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「うの花」サロンの定期的開催や地域ボランティアの定期的訪問、四季の行事へ参加等、地域とのふれ合いの場を積極的に設けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・スタッフ全員で自己評価に関与し、外部評価も含め事業所の改善や支援の質向上のために努力している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年3回の運営推進会議を開催した。行政担当者・家族会代表の参加で、2ヶ月に1回の開催で更に質の高い介護の実践を実現していく努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町担当者との直接的な意見・指導・情報交換の場が少ない。地域包括支援センターだけでなく、市担当者とも指導・情報交換を受けてサービス提供の質向上に努めている。	○	地域密着型多機能福祉施設としては、地域との結びつきが大切である。市担当者の指導で事業所と地域の関係を更に深める努力を期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりは、毎月発行の「うの花新聞」で、利用者個々のことに関しては、面会時・電話等で直接連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱設置、第三者機関への苦情申立については入所時に説明し、事業所玄関にも掲示している。その他管理者は苦情・意向の処理に積極的に取り組んでいる。又、現在家族会立ち上げを精力的に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動による利用者へのダメージはないが、離職希望者については管理者が離職に至る原因や理由を聞き取り問題解決策を話し合い、できる限り離職に至らない配慮で利用者へのダメージを未然に防ぐようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報をスタッフに提示し、スタッフのレベルや役割を考慮して、一人年間最低1回は参加している。研修参加者は管理者に報告すると共に、ミーティング等で伝達講習を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内他施設・グループホーム連絡協議会等を通じて交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所制度はないが、馴じめるように、面接やアセスメント情報を理解するように、入所直後はできる限り本人のペースに合わせた暮らしを提供するように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に暮らす関係と環境を提供することで、暮らしが共感できる配慮をしている。お互いに存在を認め合うことで、教え教えられる関係が成立するとの考えで支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント情報・家族の意向・暮らしの中での利用者の様子から意向や意見を把握するように努めている。意向や意見はあくまで利用者本人の暮らしに生かしていけるように考えて、把握に努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は作成担当者を中心に、各スタッフが利用者プランを作成したものも合わせて計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	各種シートによる状況の変化や暮らしぶりの状況を基に、ミーティングで検討し見直しに当たっている。3ヶ月1回の見直しを実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の意向に沿った暮らしを提供している。介護の基本として、事業所を中心に地域へと外向きの生活を考えて提供するようにしている。遠方への外出・行楽も気候や本人の意向を大切に、単なる周辺散歩に留まらず、郊外まで行楽・日用品買出しにも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人朝川クリニック・にえ歯科はもとより、かかりつけ医の受診を家族とともに支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族とは入所当初より重度化・終末期の対応について相談し情報の共有に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録は事務室に管理され、介護実践の場では、言葉掛けや対応に細心の注意をした支援の実践をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できることは自分でとの考えで、できる限り自立支援をされ、自由に行動することでその人らしい暮らしのできる環境を提供することに配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の指導の下、家庭的な食器やメニューを考えて食事を作る。メニューの中には、バーベキューやバイキング料理も加えて、マンネリ化しない様にも配慮している。食事の準備や後片付け等利用者が参加している。	○	食事の時間は生きるために支援する大切な場面であると共に、共に過ごす楽しい時間と考えて、できる限り職員と一緒に食事と会話を楽しむ場所にして頂くように期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回(夏期は3回)プラスシャワー浴で利用者のそれぞれの好きなように、午前10時から4時間ぐらいの利用時間を設けて対応している。入浴前のバイタルチェック、合併症・皮膚炎罹患者をチェックし、疾病の罹患や伝染に配慮しながら、意向に沿う入浴の提供を努力している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室・共用空間の清掃や食事準備・洗濯物たたみ等、それぞれの役割として参加している。ピアノ演奏で利用者を楽しませる人、手芸や書を貼りだして目を楽しませる人、それぞれの得意を披露している。得意な分野で行動し他からの評価で結構楽しんで気晴らしの効果を挙げている。できる限り自分を出出できる雰囲気を出す工夫をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所内に閉じこもることなく、日常的に外に出る支援を心掛けている。外出は、地域や人々との出会いのチャンスに恵まれ、孤独感が除去され癒される機会になる支援として実践している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない管理を実践している。防災上夜間のみ施錠しているが、徘徊・離脱については利用者の意向や状況の把握と見守りで危険のリスクを防ぐ実践をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を実施している。地域の防災倉庫設置で防災への意識は大きいですが、訓練がレクリエーション的にならないよう真剣に取り組める配慮をしている。	○	夜間体制想定での訓練を計画し、消防署や地域の人を巻き込んだ防災訓練の実施を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導の下、季節のもの、地場産、メニューの工夫で効果的な栄養摂取に配慮している。水分は医師とも相談で摂取必要量を十分賄えるように観察支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を中心にウイングの如く左右に広がる施設、共用空間も天井に明かり取りがあり、自然光も豊富できれいに使用されている。1階建て1階部分利用で、利用者にとって安定感を感じる空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間から広い廊下を経て、その先にある居室は、明るく個々の好みに応じた調度品が配置され、好みのカーテンでよりプライベートな感じがしている。直接共用空間から覗けるのではなく、視野的にもプライバシーが守られている設営になっている。		